



平成三十年三月二十三日

皇紀2678年
(西暦2018年)
第163号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

桜も咲き始めましたけれど

嵐になつたり寒くなつたり

これを書いているのは三月二十三日です。このところ、不安定な気象状態が続いており、全国的に強い風や大雪に見舞われました。全国ニュースなどを見ていると、あちらこちらでいろいろ被害が出たりしていたようです。

ここ松浦でも、暴風警報が出るほどの強い風が吹きましたが、幸いなことに被害が出たというようなことは耳にしておりません。ただ、境内はとんでもないことになりました。

さて、その境内はいろいろな花が咲いてきました。桜もちらほらと花をつけています。例年より少し早めなのですが、もうすぐ見頃を迎えそうです。



神社うんちく帖

さて、今回もまた神さまのお話です。今回は天の神さまと地の神さまです

◆天上を支える神「天之常立神」

続いて現れたのは、天の神さまである「天之常立神（あめのとこたちのかみ）」です。ちなみに、この神さまの正体は不明です。解釈としては、「天」（いわゆる神さまたちが御座します「高天原」そのもの）を神格化して、その永遠不滅を象徴した神さまだとされています。

◆「天地開闢」の「別天神」

これまで登場してこられた神さまたち

- 天御中主神
- 高御産巢日神
- 神産巢日神
- 宇摩志阿斯訶備比古遲神
- 天之常立神

『古事記』神話では、この五柱の神さまたちのことを「別天神（ことあまつかみ）」と呼びます。この別天神さまたちが、この世界が生まれるとき、いわゆる「天地開闢」のときに現れて、この世界の元を創りあげた神さまたちです。これらの神さまたちは、性別もなく独神（ひとりのみ）として身を隠されます。これ以降、神話の中にはほとんど登場しません。さて、ここからは初登場の神さま。

◆大地の神「國之常立神」

『古事記』では、別天神の次に現れたとされる神さまです。その名は「國之常立神（くにのとこたちのかみ）」です。

その働きや存在については諸説あります。別の名では「國底立尊（くにのそこたちのみこと）」とされることから「地の土台」「大地そのもの」の出現とされたり、「国常立」という名であることから、日本という国が永久に立ち続ける意味であるとするものまで様々です。

『古事記』においては、天之常立神と対をなし、性別のない独神で、その姿を現さなかったとされています。『日本書紀』では、一番最初に現れた神さまであり、「陽の気のみを受けて生まれた神で、全く陰の気を受けない純粋な男性」の神さまとされています。

さて、この神さまについてもいろいろな解釈があります。しかしそれらにおいて共通することは「とりわけ重要な神さま」であると位置づけられていることです。

神道を体系的に捉えようとする神道の流派においては、この世界の根源神・始原神として最も重要な神であるとされることもあります。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。